

2010年9月11日 札幌
シトロエン・レーシング発

ラリー・ジャパン(2010年9月8日～12日) デイ2 ～ C4WRC、熟練の走り ～

デイ1同様の白熱した戦いとなったデイ2、シトロエン・トタル・ワールドラリーチームの面々はデイ1の順位をしっかりとキープしました。セバスチャン・オジェ/ジュリアン・イングラシア組は首位ペター・ソルベルグからわずか5.4秒遅れの3位、6度の世界チャンピオンに輝くセバスチャン・ローブ/ダニエル・エレナ組は前日の失地を少々挽回し、首位から37.9秒遅れの6位につけています。



日の出ずる国 日本で、庶民の娯楽として人気なのがパチンコです。パチンコで勝つには技術と少しばかりの運が必要だとされていますが、北海道の林道を舞台に激しい戦いが2日間にわたって繰り広げられてきたラリー・ジャパンでも混沌している勝負の行方を決めるのは技術と運ということになりそうです。

セバスチャン・ローブは、ほとんどのステージで不本意な結果だったデイ1を経て少々当惑気味でしたが、デイ2はニカラ(SS11)を4位で走るというスタートを切りました。ドライバーズポイントでトップを行くローブは次の2ステージで調子を取り戻しました。ローブは昼休みに次のように語っています。「昨日と違って掃除役のハンディがなかったからね。最速グループに復帰だ。でも、他のマシンは大して失うものがないから、とんでもない飛ばし方をしている。僕だって抑えて走っているわけじゃない。むしろ強かにプッシュしているんだけど、タイム差が大きくて大変だ。でもトップとのタイム差を20秒ほど縮めたし、後半も頑張るよ」

セバスチャン・オジェは、最初の3ステージではローブにわずかに遅れをとりましたが、キナ(SS13)を終え新たにトップに立ったラトバラから1.6秒遅れの2位と、見事なパフォーマンスを見せました。「今朝も誰が掃除役かということが大きかったね。昨日と違って今日はそのアドバンテージを生かしてタイム差を縮めることができた。速く、でも無茶をしすぎないように走ったよ。午後もこの調子で行くつもりだ。今日は2位か3位で、トップと2、3秒差でフィニッシュというのが理想だね。目的はあくまで最終日に優勝することだから」

オジェは、熟練パチンコ師よろしく隅々まで気を配った完璧な走りで午後を駆け抜け、トップでデイ2を終えたソルベルグから5.4秒遅れの3位のポジションを獲得しました。「とても理想的な展開だ」とオジェは満足気です。「デイ3の距離は短くて50キロほど。差は小さいし、勝つチャンスは十分にある。最後のスーパースペシャルステージ勝負になるかも知れないね！ でもここまで気を回すのは早すぎる。とにかく今日の展開には大満足だ。C4は完璧だったし、僕らもノーミスだったしね」

6位スタートのローブは、6位でデイ2をフィニッシュ。トップ集団のなかで白熱した走りをしたにもかかわらず、悔しさは隠しきれませんでした。「力が出せていない！ 午後にはロングステージで10秒近く遅れをとった。ステアリングに何らかの衝撃を受けて、そのせいでフロント・ディファレンシャルの調子がおかしくなった。でもラリーの展開には影響しないし、明日はポイントを稼ぐことに集中していくよ」